

# 名古屋市立大学 SDGs活動レポート (2021年度版)

4 質の高い教育を  
みんなに



# SDGsセンターの開設セレモニー及びSDGs IDEA FORUM 2020 で最優秀賞を受賞した本学学生デザイン自動販売機の除幕式を開催！



<p>活動の概要</p>	<p>2021年5月14日、本学に開設した「名古屋市立大学SDGsセンター（NCU SDGs Center）」のオープニングセレモニーを山の畑キャンパス1号館にて開催しました。SDGsセンター長の薬学研究科 林教授の挨拶に続き、参列した名古屋市総務局の関嶋主幹、池田主幹よりお祝いの言葉が送られました。</p> <p>また、SDGsセンターの活動の第一弾として、本学人文社会学部の学生とコカ・コーラ ボトラーズジャパン（株）とのコラボレーションにより、学生デザインのイラストをラッピングした自動販売機が同大学山の畑キャンパスに設置され、その除幕式も行われました。デザインは、大学生のアイデアで名古屋市の地域課題の解決を目指す「SDGs IDEA FORUM 2020」で最優秀賞を受賞した人文社会学部学生グループ「NCU Global Justice Project」が、海洋プラスチックゴミ問題の解決の一環として企画したものです。</p> <p>今後も本学では、行政、産業界、金融界などの各機関との連携を深めながら、国際社会共通の課題に積極的に取り組んでまいります。</p>
<p>活動の時期</p>	<p>2021年5月</p>



名古屋市立大学SDGsセンター 開設セレモニーの様子



自動販売機の除幕式の様子

# 本学医学部生による「ありたい内視鏡医療労働の未来像」を考えるワークショップを開催！



<p>活動の時期</p>	<p>2021年6月11日および25日に、本学医学部4年生の社会医学（予防医学基礎）コース・社会医学実習のテーマ内で、「ありたい内視鏡医療労働の未来像」を考えるワークショップを行いました。</p> <p>本学は、2020年12月にJSTの共創の場形成支援プログラム（COI-NEXT）育成型において「近未来労働環境デザイン拠点」事業として採択されており、SDGs Goal 3, SDGs Goal 8, SDGs Goal 11の達成への寄与として、「すべての労働者が労働しながら元気になる労働環境をデザインする」ことを目指しています。今回のワークショップは、このプロジェクトの一環として開催したものです。内視鏡治療医療従事者の間では筋骨格系障害が多数報告されており、未来の労働環境改善のための具体的な方策を学生目線で議論しました。</p> <p>当日は、内視鏡治療に関する基礎講義を行った後、16名の学生を4グループに分け、「100歳まで元気に生き活きと、働きながら健康になる未来の内視鏡医療労働ビジョン」というテーマでグループワークを行いました。学生たちは、「労働のあるべき姿（ありたい姿）」の要素を抽出し、バックキャスト法（現状の課題から未来を考えるのではなく、未来の「ありたい姿/あるべき姿」を設定し、そこから逆算で“いま”を考える思考法）で2040年の内視鏡労働医療ビジョンを議論しました。</p> <p>最後に行われたプレゼンテーションでは、「内視鏡医療労働は時間的にポータレス化が進むことが予想される。個人の持つ知識・経験・スキルは共有知として世界中で共有され、未来の内視鏡医の育成・教育面や内視鏡医の労働環境がグレードアップすることが必要。」「医療チームの質を可視化し、チームの持つパフォーマンスを客観的に評価可能な技能評価制度が実現。正当に技能評価されることで、医療従事者のモチベーションを喚起し、医療の質情報を患者も参照できることで、市場原理・競争原理が作用し、医療の質も向上する。」などの未来ビジョンが発表されました。</p> <p>「未来の医療労働のあるべき姿」を考えることを通じて、働きがいや経済成長、産業と技術革新の基盤の整備といった社会システム要素が医療従事者の健康・福祉と関係することを包括的視点で考えることを通じて、SDGsの基本的理念の習得にもつながる教育プログラムです。</p>
<p>活動の時期</p>	<p>2021年6月</p>



当日の様子1



当日の様子2

## 【学生の感想（一部抜粋）】

- 技術の限界を考えずに未来ビジョンにディスカッションするのはとても面白かったです。別のテーマでもやってみたいと思いました。
- 労働に関して、樹形図（マインドマップ）を書くなどして話し合うことで新たな視点から考えることができました。自分たちが考えた未来像が少しでもいい方向に実現したらいいなと思います
- 未来と一言で言っても皆それぞれ出てくるイメージが違い、他の人のアイデアなど発表で確認できて面白かった。
- 未来のテクノロジー発展や新しいデバイスについて想定をしながら教育面や労働環境面についてディスカッションし先生方や同級生たちの様々な考え方や意見を聞け、医療機器についての柔軟な発想やAIや翻訳技術の進化へのアプローチの仕方やそれらを用いた教育など、自分が考え付かなかったことも多く学びが多かった。
- 今まで医療の未来ビジョンについて詳しく話し合ったりする機会はなかったので、今回のワークショップはとても有意義なものだった。マインドマップに意見をまとめていくことでそれまで出た意見から新しい意見を考えやすくなった。そして堀先生の講義などを通して内視鏡についての理解も深まった。
- グループで行うことにより考えが深まりました。堀先生に実際の現場での状況を聞けることで内視鏡治療への理解も進みました。最初は漠然としたものが多くまとまるのが不安でしたが先生方の助言により良いものができたのでやってよかったと思いました。
- 1人で考えるよりグループでアイデアを出し合った方が、多面的、奇抜な発想が多く生まれて、解のない問題解決の手法としてとても興味深いと感じました。ワークショップ前はこの方法では地に足がつかぬ結論しか出ないのでは、と思っていましたが、堀先生の講義と、その後ワークショップに参加して下さることにより、良いバランスでワークショップを進めていくことができたと感じています。
- 普段講義を聞くのがあまり得意ではない自分ですが、堀先生の講義を真剣に聞くことができ、内視鏡治療について興味が湧いたの

は言うまでもなく、話し合いの途中で榎先生や堀先生から直接貴重なアドバイスをいただけて、自分たちにとって得るものがとても大きかったグループ実習でした。

【4グループの学生がまとめた未来ビジョン】 ＊クリックして拡大

**2040**

**テラーメード・バイオセンシングを用いた包括型医療・予防システムが実現する。**  
多様なセクターが協同・連携して医療・生活のビッグデータを利活用し、「患者の生きがい」と「医師の働きがい」を共有する。

● 患者の健康データをリアルタイムで収集し、より早くより正確に診断・治療が可能になる。  
● 医師と患者の間に「健康データ」の壁がなくなり、患者の健康状態をリアルタイムで把握できる。  
● 患者の健康データをリアルタイムで収集し、より早くより正確に診断・治療が可能になる。  
● 医師と患者の間に「健康データ」の壁がなくなり、患者の健康状態をリアルタイムで把握できる。

● 患者の健康データをリアルタイムで収集し、より早くより正確に診断・治療が可能になる。  
● 医師と患者の間に「健康データ」の壁がなくなり、患者の健康状態をリアルタイムで把握できる。

● 患者の健康データをリアルタイムで収集し、より早くより正確に診断・治療が可能になる。  
● 医師と患者の間に「健康データ」の壁がなくなり、患者の健康状態をリアルタイムで把握できる。

Aグループ

**2040**

**内臓科医療労働は時空間的にボーダレス化が進む。個人の持つ知識・経験・スキルは共有知として世界中で共有され、未来の内臓科医の資質・教育面や内臓科医の労働環境がグレードアップする。**

● 世界中の医師が、インターネットを通じて知識・経験を共有し、患者の健康をより良く管理できる。  
● 医師の労働環境が改善され、患者の健康をより良く管理できる。  
● 医師の労働環境が改善され、患者の健康をより良く管理できる。

● 世界中の医師が、インターネットを通じて知識・経験を共有し、患者の健康をより良く管理できる。  
● 医師の労働環境が改善され、患者の健康をより良く管理できる。

● 世界中の医師が、インターネットを通じて知識・経験を共有し、患者の健康をより良く管理できる。  
● 医師の労働環境が改善され、患者の健康をより良く管理できる。

Bグループ

**2040**

**医療チームの質を可視化し、チームの持つパフォーマンスを客観的に評価可能な技術評価制度が実現。正當に技能評価されることで、医療従事者のモチベーションを向上し、医療の質も向上する。**

● 医療従事者のモチベーションを向上し、医療の質も向上する。  
● 医療従事者のモチベーションを向上し、医療の質も向上する。

● 医療従事者のモチベーションを向上し、医療の質も向上する。  
● 医療従事者のモチベーションを向上し、医療の質も向上する。

● 医療従事者のモチベーションを向上し、医療の質も向上する。  
● 医療従事者のモチベーションを向上し、医療の質も向上する。

Cグループ

**2040**

**健康増進を担保する働き方が常識となる。医師の労働環境が整備され、若手医師が高度な医療技術を早期に習得可能なデジタルシステムが整備される。**

● 若手医師が高度な医療技術を早期に習得可能なデジタルシステムが整備される。  
● 若手医師が高度な医療技術を早期に習得可能なデジタルシステムが整備される。

● 若手医師が高度な医療技術を早期に習得可能なデジタルシステムが整備される。  
● 若手医師が高度な医療技術を早期に習得可能なデジタルシステムが整備される。

● 若手医師が高度な医療技術を早期に習得可能なデジタルシステムが整備される。  
● 若手医師が高度な医療技術を早期に習得可能なデジタルシステムが整備される。

Dグループ

指導教員：

医学研究科環境労働衛生学： 榎 毅彦教授、松木太郎特任助教

医学研究科消化器・代謝内科学： 堀 寧助教

# SDGs IDEA FORUM 2021の開催について



<p>活動の概要</p>	<p>名古屋市立大学では、令和元年7月に「SDGs 未来都市」に選定された名古屋市と連携して、SDGs（持続可能な開発目標）の達成に向けた取り組みを進めています。2020年度に引き続き、2021年度においても、名古屋市と共催で、SDGs達成に向けた名古屋市の地域課題を大学生のアイデアで解決に導く「SDGs IDEA FORUM 2021」を開催します。</p> <p>【SDGs IDEA FORUM 2021における名古屋市の5つの地域課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■人々が健康に生きられるまちづくり (SDG3,SDG11,SDG16)</li> <li>■名古屋の子どもたちにSDGsを広めよう (SDG4,SDG17,SDG11)</li> <li>■名古屋から食品ロスを減らそう (SDG2,SDG4,SDG12)</li> <li>■多文化が共生できるまちづくり (SDG3,SDG10,SDG11)</li> <li>■名古屋を生物多様性先進都市に (SDG13,SDG14,SDG15)</li> </ul>
<p>活動の時期</p>	<p>2021年8月～2022年2月</p>
<p>関連URL</p>	<p><a href="#">SDGs IDEA FORUM 2021</a></p>



## 名古屋市の地域課題を、大学生のアイデアで解決する。

名古屋市は、2019年に「SDGs 未来都市」に選定され、SDGs達成のために市民が一体となって地域の課題を解決していくことが求められています。そこで、名古屋市内にキャンパスを置く大学・短期大学の大学生から柔軟かつ革新的な発想を募集し、地域課題の解決を目指すプロジェクトをスタートします。



SDGs達成に向けた名古屋市の地域課題を公開。 学生が主体となり解決に。 アイデアコンテストを。 優秀アイデアには経費無償で実現。 優れたアイデアを募集。 授業・実習・研究でシミュレーション。 採り上げられ実施を支援。

## 2021年度は5つの地域課題を選定。



主催：SDGs IDEA FORUM 実行委員会（名古屋市・名古屋市立大学）  
 後援：中日新聞社 名古屋銀行 朝日インテック

## 中日SDGsフェア（8月29日開催）に参加しました



活動の概要	<p>本学は、2021年8月29日（日）にウインクあいちで開催された「中日SDGsフェア」（中日新聞社主催）に参加しました。このフェアは、小学生・中学生・高校生などがSDGsについて身近に感じられるよう企画されたものです。</p> <p>ブースでは、本学のSDGsに関する様々な活動についてパネル等で展示しました。ブースを訪れた来場者の方々は展示内容を熱心にご覧になっていました。</p> <p>また当日は、大学生が「SDGsアンバサダー」となって企業・団体のSDGsの取り組みを取材し、その内容についてプレゼンを行う企画も開催されました。本学からは経済学部の学生が参加し、名古屋銀行のSDGsの取り組みについて取材内容をプレゼンしました。</p>
活動の時期	2021年8月
関連URL	<a href="#">中日SDGsフェア</a>



ブースの様子



学生によるプレゼンテーションの様子

# NCUサステナビリティ・シンポジウム2021開催！



## 概要

2021年11月3日(水)にオンライン（ZOOM使用）にて、NCUサステナビリティ・シンポジウム2021「防災×SDGs～いま、私たちが備えることとは～」(名古屋市立大学主催、名古屋市・名古屋市教育局委員会・JICA中部・名古屋市立大学SDGsセンター後援)を開催しました。

今年は東日本大震災から10年という節目の年であること、また昨年から続くコロナ禍での暮らしに鑑み、災害に対する私たちの平時の営みや暮らしが改めて問われている一年でした。災害に対しての危機意識を問い返す時機にあると言えますが、市民目線では、危機意識に個人差があることは否めません。南海トラフ巨大地震が想定される今、SDGs（Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標）にある17目標を包括的に捉えながら、私たちのいまをふり振り返り、今後のあり方を考えていくことが求められています。

そこでシンポジウムでは防災とSDGsを掛け合わせ、不確実性の高い時代に生きる私たちにとってすべきこととは何かを考え、子ども・若者の視点から示し、発表しました。

なお、本シンポジウムに関する事業は名古屋市立大学特別研究奨励費(地域貢献型共同研究の推進事業)の助成を受けて実施されました。

## 参加チーム

- ・名古屋市立大学人文社会学部心理教育学科 曾我ゼミ
- ・名古屋市立大学人文社会学部心理教育学科 椎名ゼミ
- ・名古屋市立大学看護学部看護学科地域保健看護学ゼミ
- ・名古屋市立大学高等教育院CS: presentation
- ・オルタナティブスクール あいち惟の森
- ・名古屋市立北高等学校国際理解コース
- ・名古屋市立名東高等学校国際英語科
- ・名古屋市立工芸高等学校都市システム科

## スケジュール

13:30 - 13:40 開会の挨拶 (名古屋市立大学SDGsセンター長 林秀敏先生)  
13:40 - 15:00 各参加チームからの報告 (1チーム×8分)  
15:00 - 15:10 休憩  
15:10 - 15:40 ワークショップ (ブレイクアウトルームによるグループワーク)  
15:40 - 16:00 各班からの報告  
16:00 - 16:20 表彰式 (審査員からの講評)  
16:20 - 16:30 閉会の挨拶 (名古屋市立大学人文社会学部長 山本明代先生)

## 審査員と審査結果

各チームの発表を、「テーマと提言／研究内容の適合性」、「プレゼンテーションのわかりやすさ」、「若者目線の独創性」の観点から審査して下さった審査員は、次の6名です（五十音順、敬称略）。

- ・根 岸 恵 子 (特定非営利活動法人こどもNPO理事長)
- ・長谷川 哲 司 (名古屋市教育委員会事務局指導部指導室指導主事)
- ・林 秀 敏 (名古屋市立大学SDGsセンター長)
- ・水 野 角 栄 (名古屋市防災危機管理局危機対策室室長)
- ・村 上 裕 道 (JICA中部センター所長)
- ・山 本 明 代 (名古屋市立大学大学院人間文化研究科長・人文社会学部長)

審査を待っている間、参加者である高校生・大学生らはチームの枠を超え、それぞれのチームの報告から何を学び、「いま、私たちが備えることとは何か」について話し合うグループワークを行いました。それぞれのチームの報告から、防災へのさまざまなアプローチがあることを知るとともに、幅広い視点から防災を捉えることの大切さに気づき、当事者意識をもって日常にいかにかかすことができるのかを考える機会となりました。

## 審査結果

- ・最優秀賞 : オルタナティブスクール 惟の森
  - ・優秀賞 : 名古屋市立北高等学校国際理解コース
  - ・審査員特別賞: 名古屋市立大学看護学部看護学科地域保健看護学ゼミ
  - ・研究・実践賞: 名古屋市立工芸高等学校都市システム科
  - ・奨励賞 (プレゼンテーション部門) : 名古屋市立大学高等教育院CS: presentation
  - ・奨励賞 (オリジナリティ部門) : 名古屋市立大学人文社会学部心理教育学科 曾我ゼミ
  - ・奨励賞 (防災部門) : 名古屋市立名東高等学校国際英語科
  - ・奨励賞 (SDGs部門) : 名古屋市立大学人文社会学部心理教育学科 椎名ゼミ
- 

## 当日の様子





# 教養科目「社会学C」 & 「地域連携参加型学習」の合同 講演会開催！



2021年11月13日（土）午後1時半から、名古屋市立大学桜山キャンパスさくら講堂で講演会を開催しました。教養科目である「社会学C」と「地域連携参加型学習」という授業の一貫で日本環境設計株式会社取締役会長、岩元美智彦氏をお招きして、ご講演いただきました。

両授業において扱っているESD（Education for Sustainable Development: 持続可能な開発のための教育）は、持続可能な社会づくりを担う人を育てる教育活動として、2005年よりユネスコを中心に普及・促進されてきました。現在では、SDGs（Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標）を達成するための教育活動のひとつとして捉えられています。SDGsに取り組むにあたり、持続可能な開発を構成する経済開発、環境保全および社会的公正の均衡はときに難しさをともない、不可能とも思われることも少なくありません。

今回お話してくださった岩元さんはこうした状況に「あそび心」をもって取り組まれてきました。映画「Back to the Future」に出てくる「ごみで走るデロリアン」からの着想で、「ごみを資源に」する技術と仕組みを開発しました。誰もが参加できる機会をつかって、生活者である一人ひとりが「ごみを資源に」する習慣を身につけること、それを文化にしていこうと試みられています。

岩元さんのお話の後で、岩元さんを囲んで座談会形式で受講生からの質問をもとに、持続可能な社会づくりに関わるこのワクワク感を共有する時間を持ちました。気候変動に関する諸問題によって、未来に希望を見出せず、「気候不安症」をいただく若者も少なくありません。岩元さんの話からは、そうした不安を払拭するような確かさとともに、あそび心をもって取り組むゆかしさを感じることができました。

## 【担当教員】

- ・「社会学C」：安藤理恵（高等教育院 名古屋市教育委員会連携推進特任教授）
- ・「地域連携参加型学習」：安藤理恵 & 曾我幸代（人間文化研究科准教授）

## 【出席した学生からのコメント】

- ・映画からの着想で世界を変える技術を生み出せること、その実行力に感動した。
- ・行動することを諦めない強さを持っていて、とにかくカッコいい。自分も見習いたい。
- ・岩元さんのことをもっと知りたくなっただけでなく、積極的に知識を増やしたい、学びたいと純粋に思った。これからの大学時代を有意義に過ごしたい。自分にも何かできるはず。
- ・自分事にするこの大切さを実感した。「正しい」を「楽しい」にしていけば、世界が変わる。
- ・「世界はまだ捨てたものではないのだ」と考えを改めた。希望を見いだせた。
- ・多くの今はまだ無関心な人に、ぜひ聞いて欲しい。自分は変わったと思う。聞いたらみんなリサイクルしたくなるだろう。



## 東京海上日動「SDGsまつり」に参加！



活動の概要	本学は、2021年12月14日（火）に名古屋東京海上日動ビルディングで開催された「SDGsまつり」（主催：東京海上日動火災保険株式会社）にブース出展をしました。 本学の研究、教育、学生活動の代表的な取り組みについてパネル等で展示を行い、本学のSDGs活動について広くPRを行いました。 ブースには、行政、企業、他大学など様々な機関の方が立ち寄り、SDGsの取り組みに関する情報交換を行いました。
活動の時期	2021年12月
関連URL	<a href="#">東京海上日動 SDGsまつり</a>



## 本学学生がLGBTQ+をテーマとしたオリジナル絵本を保育園・幼稚園等で読み聞かせ



本学の経済学部 鶴飼宏成ゼミの学生たちが、LGBTQ+をテーマとして制作したオリジナル絵本『あおいくんのかみかざり』について、名古屋市内の保育園・幼稚園等で読み聞かせを行いました。

この絵本は、SDG5（ジェンダー平等を実現しよう）、SDG4（質の高い平等をみんなに）、SDG10（人や国の不平等をなくそう）に着目し、「性の多様性に理解のある子どもたちが増えてほしい」という学生たちの想いから制作されたものです。

### ◆絵本の詳細

『あおいくんのかみかざり』

- ・対象年齢：幼稚園年長～小学校低学年(5～7歳)
- ・発売日：2021年11月10日
- ・価格：2,090円（本体1,900円+税10%）
- ・出版社：三恵社
- ・販売場所：Amazon、丸善名古屋本店、名古屋市立大学生協
- ・内容：LGBTQ+の中の「T」（トランスジェンダー）がテーマ。小学1年生の《そらくん》が同級生の《あおいくん》がつけていた髪飾りを褒めるところから始まり、一人の男の子が性の多様性に気づいていく物語。



詳細は、以下の報道発表資料をご確認ください。

[学生制作オリジナル絵本\[テーマ：LGBTQ+\]と保育園・幼稚園等での読み聞かせ活動のご案内](#)

※本件は、2022年1月20日（木）のCBCテレビ「チャント！」で放送されました。

## 2021年度 名古屋市立大学×名古屋市教育委員会 高大連携企画 『NCU グレード・スキップ・チャレンジ』



活動の概要	<p>名古屋市立大学では、名古屋市教育委員会との高大連携事業の一環として、2019年度から「NCU グレード・スキップ・チャレンジ」を開催しております。</p> <p>これは、市立高校の生徒が、主に夏季休業期間の4～5日間、高校から大学に飛び級（Grade Skip）して、本学が実施する講座に参加し、大学水準の調査・研究活動を体験する企画です。高校教員にも参加いただいています。</p> <p>対象となる学部は、2019年度に人文社会学部でスタートし、2021年度は人文社会学部、経済学部、看護学部、芸術工学部の4学部に拡大しました。</p>
活動の時期	2021年8月
関連URL	<a href="#">2021年度 開講講座一覧</a>



看護講座の様子



芸術工学講座の様子



人文社会学講座の様子

# 2021年度 大学丸ごと研究室体験 『市立大学・市立高校 高大連携講座』



活動の概要	名古屋市立大学では、名古屋市教育委員会との高大連携事業の一環として、2015年度から「大学丸ごと研究室体験～市立大学・市立高校 高大連携講座～」を開講しています。 この講座は、夏季休業期間を利用し、本学医学研究科・薬学研究科・理学研究科の研究室において市立高校生のグループを受け入れ、各研究室の専門分野に関する大学水準の調査・研究などを体験してもらうものです。高校教員にも参加いただいています。
活動の時期	2021年7月～8月
関連URL	<a href="#">2021年度 講座一覧</a>



医学講座の様子



薬学講座の様子



理学講座の様子

# 国費留学優先配置(特別枠)事業「環境健康安全学」プログラム



活動の概要	主に東南アジア諸国の①海外拠点校②大学間交流協定校から選抜された国費留学生に加え、本学の医学研究科、薬学研究科、理学研究科に入学した私費留学生と日本人学生が、「環境健康安全学」に関連した教育と研究を協働して行います。このプログラムでは、通常環境健康安全学に関連する講義科目の受講および研究に従事することに加えて、グローバルレベルでのSDGsに関連した課題について議論し解決策を提示するアクティブラーニングやSDGs関連機関でのインターンシップを行うなどの特色があります。
活動の時期	2020年度～2026年度
関連URL	<a href="#">MEXT scholarship   国際交流・留学   名古屋市立大学 (nagoya-cu.ac.jp)</a>
期待される効果、今後の展望	このプログラムで学んだSGSに関連する知識や経験を元に、プログラム受講生は東南アジア地域等でのSDGs関連のリーダーになることが期待されています。また、このプログラムの履修を通じて培われた人脈は、グローバルレベルでのSDGs課題解決に役立つことも期待されています。
所属	医学研究科、薬学研究科、理学研究科
氏名	高橋智、上島通浩、安井孝周、頭金正博、肥田重明、熊澤慶伯、雨夜徹
専門分野	公衆衛生、環境科学、衛生化学、生態学



一期生アクティブラーニング発表会

## 2021年度 国連食糧農業機関（FAO）へのインターンシ ップ生の派遣



活動の概要	<p>国連食糧農業機関（FAO、本部イタリア・ローマ）は世界の農林水産業の発展と農村開発に取り組む国連の専門機関です。1945年に設立され、196の加盟国（2つの準加盟国含む）およびEU（欧州連合）から成り、食糧安全保障や飢餓撲滅運動等の持続的開発目標（SDGs）の達成を目指しています。本学は2010年にFAOとインターンシップ派遣に関する協定を締結し、2011年度より同機関の水産局にインターン生派遣を開始しました。2018年度より、同機関のインターンシッププログラム見直しにより、インターンの派遣先が全世界のオフィスに拡大されました。</p> <p>2021年度は、学生2名がFAOスリランカ事務所でのインターンシップおよびカンボジア事務所でのフェローシップにそれぞれ1ずつ参加しました。従事期間は約3か月で、オンラインで実施されました。</p>
活動の時期	<p>2011年度よりインターン生の派遣開始 2018年度よりインターンシッププログラム見直し 2021年度：派遣実績2名</p>
関連URL	<p><a href="#">国連食糧農業機関(FAO)インターンシップ</a></p>

## 名市大ブックス第9・10巻を出版！



活動の概要	<p>2021年12月10日（金）、社会貢献活動の一環として出版を続けている「名市大ブックス」シリーズの第9・10巻を出版しました。第9巻「いのちを守る高度・専門医療～東部医療センターの挑戦～」、第10巻「地域に根ざし、寄り添う医療～西部医療センターの挑戦～」は、2021年4月から本学の附属病院になった東部・西部医療センターの医師らが中心に執筆し、両センターの特長を存分に生かした内容となっています。</p> <p>ついに10巻目を数える「名市大ブックス」シリーズは、毎巻ベストセラーとして読者に親しまれています。生活に役立つ健康知識や教養を皆さまに届ける取り組みとして、これからも続いていく予定です。</p> <p>※本件は本学広報誌『<a href="#">創新</a>』Vol.42（2021年12月発行）に掲載されました。</p>
活動の時期	2021年12月
関連URL	<a href="#">本学広報誌『<a href="#">創新</a>』Vol.42</a>



## 教学 I R の推進



活動の概要	<p>本学の教学 I R (※) の取り組みが文部科学省の「デジタルを活用した大学・高専教育高度化プラン」に採択されました。この取り組みは、学内の各部署で管理されているさまざまな学修データを集める仕組みを構築し、集約した学修データを Tableau というツールを用いて分析・可視化を行い、結果を学生・教員にフィードバックするものです。これらの取り組みを通して、本学の教学 I R をさらに推進し、大学での学修をサポートする仕組みや体制の確立を目指してまいります。</p> <p>(※) IR=Institutional Research : 大学の教育におけるさまざまな情報を収集、分析することにより、学内の意思決定や改善活動を支援する取り組み</p> <p>※本件は本学広報誌『<a href="#">創新</a>』Vol.42 (2021年12月発行) に掲載されました。</p>
活動の時期	2021年度～
関連URL	<a href="#">本学広報誌『<a href="#">創新</a>』Vol.42</a>

## 第14回・15回 教育改革フォーラムを開催



活動の概要	<p>名古屋市教育委員会との連携協力協定に基づき、今年度、本学の教員2名と市立高校の教員2名が、相互に出向いて教育活動等を行う人事交流を行っています。</p> <p>2021年9月21日（火）、「高大連携の新しい地平を拓く—名古屋市教育委員会と名古屋市立大学の挑戦—」をテーマに第14回教育改革フォーラムを開催し、4名の派遣教員による講演が行われました。高等学校における新しい教育実践、今年度前期の研究・教育実践の成果、人事交流の今後の課題等について発表されました。</p> <p>2021年10月11日（月）の第15回教育改革フォーラムでは、関西大学より教育推進部教授の山田剛史氏をお招きし、「教学IRをどう理解し、実践するか」をテーマにご講演いただきました。講演後のアンケートでは、「教学IRとは何か、具体的にはどのような活用方法があるか理解できた」「他大学の運用状況が学べた」などの声があり、教学IRについて教職員が関心を持つきっかけになりました。</p> <p>※本件は本学広報誌『<a href="#">『創新』 Vol.42</a>（2021年12月発行）に掲載されました。</p>
活動の時期	2021年9月、10月
関連URL	<a href="#">本学広報誌『<a href="#">『創新』 Vol.42</a></a>

## 2021年度 ようこそ大学へ！プロジェクトー施設等の子 どもたちへの学習支援ー



活動の概要	<p>2021年8月5日（木）に「ようこそ大学へ！プロジェクト」を開催しました。これは、人間文化研究科の谷口由希子研究室が中心となって実施しているプロジェクトで、児童養護施設等の子どもたちが「1日名古屋市大生」となって大学の雰囲気を経験することで、学習支援と高校・大学進学への動機づけを促すことを目的とした名古屋市との共同企画です。</p> <p>当日は小学5年～高校3年の36名が参加し、楽しそうに学生気分を味わう姿が印象的でした。</p> <p>※本件は本学広報誌『<a href="#">『創新』 Vol.42</a>（2021年12月発行）に掲載されました。</p>
活動の時期	2021年8月
関連URL	<a href="#">本学広報誌『<a href="#">『創新』 Vol.42</a></a>

## 2021年度サイエンスパートナーシップイベント「生命の源としくみを探る」を開催



活動の概要	<p>2021年11月3日（水・祝）、中高生を対象に市科学館でサイエンスパートナーシップイベント「生命の源としくみを探る」を開催し、55名の参加がありました。本学からは医学研究科 奥野友介教授と理学研究科 中務邦雄准教授が、科学館からは小林修二学芸員が、ウイルスやたんぱく質、宇宙といったさまざまな切り口から生命の源としくみについて講演しました。講演では、講師の研究内容や科学館の展示について紹介され、参加者が熱心に聞き入る様子が印象的でした。講演後には科学館展示自由見学のほか、「国際宇宙ステーション」に関するプラネタリウム観覧が行われ、生命科学やその研究への関心を深めてもらう良い機会となりました。</p> <p>※本件は本学広報誌『<a href="#">創新</a>』Vol.42（2021年12月発行）に掲載されました。</p>
活動の時期	2021年11月
関連URL	<a href="#">本学広報誌『<a href="#">創新</a>』Vol.42</a>

## 中学生 プログラミング教室を開催



活動の概要	<p>2021年8月11日（水）・12日（木）に、名古屋少年少女発明クラブと本学との共催で中学生プログラミング教室を開催しました。理学研究科 渡邊裕司准教授が講師を務め、中学生48名がパソコンを操作しながら、プログラミング言語Python（パイソン）を用いたプログラミングの基礎から機械学習による手書き数字の認識までを学びました。感染対策に十分に配慮した上、オンラインではなく対面で開催したため、直接受講者の反応を見ながらアドバイスすることができました。中学生がプログラミングに熱心に励む様子もうかがえ、その姿に明るい未来を感じました。</p> <p>※本件は本学広報誌『<a href="#">『創新』</a> Vol.42（2021年12月発行）に掲載されました。</p>
活動の時期	2021年8月
関連URL	<a href="#">本学広報誌『<a href="#">『創新』</a> Vol.42</a>

## 「卓展2021」をオンライン開催



活動の概要	<p>卓展は、芸術工学部の学生たちが自ら作品展示会を主催することで、創作活動や学びを発信し、学内のクリエイティビティの向上を図ることを目的とした展示会です。</p> <p>例年、北千種キャンパスにて実物を展示していましたが、新型コロナウイルス感染症対策のため、昨年度に引き続き2021年9月1日（水）～9月30日（木）までオンライン開催しました。</p> <p>建築からプロダクト、メディアデザインに至るまで、幅広いジャンルのデザイン卓が、ウェブ会場とバーチャル会場で作品を公開しました。また、教員からの作品評価も行われ、参加学生に単位も付与されました。</p> <p>※本件は本学広報誌『創新』Vol.42（2021年12月発行）に掲載されました。</p>
活動の時期	2021年9月
関連URL	<a href="#">本学広報誌『創新』Vol.42</a>

## 小鷹研究室、作間研究室が名古屋電腦博覧会に出展



活動の概要	<p>2021年8月26日（木）～9月5日（日）、市民ギャラリー矢田にて、県内の芸術系五大学の学生・卒業生によるデジタルメディア作品の展示会「名古屋電腦博覧会」が開催され、小鷹研究室、作間研究室が出展しました。</p> <p>芸術工学研究科修士課程1年の元橋洗佐さんは、体を少し傾けただけでも落下するような感覚に陥るVR装置、同博士課程1年 佐藤優太郎さんは、カニのイラストに手指を乗せて動かすとカニと一体化したような錯覚を覚える作品を展示しました。コロナ禍での開催でしたが、多くの来場者に実際に体験していただき、今後の実験に大いに役立つ意見をいただきました。</p> <p>※本件は本学広報誌『創新』Vol.42（2021年12月発行）に掲載されました。</p>
活動の時期	2021年8月～9月
関連URL	<a href="#">本学広報誌『創新』Vol.42</a>

## 2021年度 名古屋市立大学高大連携授業



活動の時期	2021年度後期（9月～1月）
活動の概要	<p>名古屋市立大学では、高校生が本学学生と一緒に大学の通常の授業を履修できる「高大連携授業」を開講しています。</p> <p>「高大連携授業」は、意欲のある高校生に対し、多様な「学び」の機会を提供し、本学の教育研究に触れ、理解と関心を深めていただくことを目的としています。科目等履修生としてこの科目を受講し、試験に合格した場合、大学の単位を修得することができます。</p> <p>例年、全学部の大学1年生を対象とした教養教育のうち、2科目を開講しています。</p> <p>【2021年度開講科目】</p> <p>■バイオサイエンス入門：総合生命理学部 湯川泰教授、木村幸太郎教授、田上英明准教授</p> <p>■社会学C：人文社会学部 高橋康史講師</p>
関連URL	<a href="#">2021年度 開催報告</a>



「バイオサイエンス入門」の様子



「社会学C」の様子



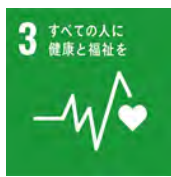
## 本学学生が制作したSDGs関連動画が海外の映画祭で入選



活動の概要	<p>本学芸術工学部の栗原研究室の学生らが制作したSDGsに関連する動画が、海外の映画祭で高い評価を受けました。</p> <p>■South America Awards (STUDENT FILM COMPETITION) 【作品名】「SDGs MAN！」 ※学生映画部門で「最優秀脚本賞」「最優秀編集賞」を受賞</p> <p>■Los Angeles Theatrical release competition &amp; awards finalist 【作品名】「女の子ごっこ (Girl's play)」</p>
活動の時期	2022年2月
関連URL	<a href="#">栗原研究室WEBサイト</a>



# 「脳のはたらき」を推定する技術の開発



活動の概要	さまざまな技術的な発展により、ヒトや実験動物の行動や脳活動のデータを精度良く測定することが可能になってきています。しかし、測定された行動や脳活動のデータから「脳のはたらき」を適切に推定する技術はほとんど存在していません。私たちは、これまでの基礎生命科学研究で培った経験を元にして、脳のはたらきを適切に理解するための人工知能技術などの開発を行っています。
活動の時期	2019年6月（論文発表） 2020年10月（論文発表） 2021年3月（論文発表） 2021年9月（論文発表）
関連URL	<a href="#">研究室WEBサイト</a> <a href="#">動物行動の人工知能解析に関する異分野融合研究に関して；2021年8月17日公開</a> <a href="#">Wen et al., eLife 2021に関して；2021年6月30日掲載</a> <a href="#">動物行動の人工知能解析に関する異分野融合研究に関して；2021年12月24日に公開</a>
researchmap URL	<a href="https://researchmap.jp/kokimura/">https://researchmap.jp/kokimura/</a>
関連する論文	Maekawa T, Kimura KD. (他16名) (2020) Nat Commun, 11: 5316. Wen C, Kimura KD. (他12名) (2021) eLife, 10: e59187. Maekawa T, Kimura KD. (他6名) (2021) Nat Commun, 12: 5519.
期待される効果、今後の展望	私たちの研究室の主な研究対象は「線虫」ですが、シンプルで解析が容易な線虫を研究して技術開発を行えば、それが高等動物やヒトの生命機能の理解につながる事が分かってきました。行動や脳活動の測定データから得られた知識と、脳機能障害や薬理効果に関する基礎生物学的な知見を独自の方法で組み合わせることで「脳のはたらき」が理解できるようになると考えています。このように、他の研究者の方々とは全く違った角度から、社会に貢献していく所存です。
所属	理学研究科 生命情報系
氏名	木村 幸太郎
専門分野	神経科学、分子遺伝学、光生理学（イメージング）

## 本学人文社会学部の学生が「スマホでオフラインでも見ることができるポケット防災」を作成



活動の概要	<p>本学の人文社会学部の曾我ゼミの学生たちが、滝子キャンパスで学ぶ学生を対象に防災の情報を提供する「スマホでオフラインでも見ることができる新・ポケット防災」を作成しました。</p> <p>本学では、滝子キャンパスで学ぶ学生全員に防災情報が載っている持ち運び可能な「ポケット防災」を紙媒体にて配布していますが、曾我ゼミの学生たちはより携帯しやすいようにスマホに着目し、オフラインで閲覧可能な「新・ポケット防災」を作成しました。</p> <p>こちらは「防災用品リスト」「大学マップ」「ハザードマップ」などの情報が新たに追加された他、「誰一人取り残さない」を目標に様々なニーズを反映した内容にすることを心がけたり、やさしい日本語表記の冊子を別に作成したりするなどの工夫がされています。</p> <p>今後は従来のポケット防災の補足資料として、滝子キャンパスで学ぶ学生に配布する予定です。</p>
活動の時期	2021年度



## 本学学生がSDGs IDEA FORUM 2021で優秀賞を受賞！



活動の概要	SDGs達成に向けた名古屋市の地域課題を大学生のアイデアで解決することを目指して開催された「SDGs IDEA FORUM 2021」において、本学から参加した「Co-link」（人文社会学部3年・2年）が優秀賞を受賞しました。
活動の時期	2022年2月
関連URL	<a href="#">SDGs IDEA FORUM 2021</a>



### 【優秀賞】

チーム名：Co-link  
企画名：『CoCoからマッピング』  
(人文社会学部3年・2年)

## SDGs IDEA コンテストを開催



活動の概要	<p>本学では、名古屋市と連携して、SDGs達成に向けた名古屋市の地域課題を大学生のアイデアで解決に導く「SDGs IDEA FORUM 2021」を実施しています。</p> <p>総数38件の応募アイデアのうち、厳正な書類選考を通過した優秀8チームが参加する「SDGs IDEA コンテスト」が2022年2月26日に本学さくら講堂で開催されました。</p> <p>当日は、参加した8チームによるプレゼンテーションが行われた他、本学SDGセンター副センター長でエコチル調査愛知ユニットセンター副センター長の榎原准教授（医学研究科）による講演等が行われました。</p>
活動の時期	2022年2月
関連URL	<a href="#">SDGs IDEA FORUM 2021</a>



# NCUサステナビリティ・シンポジウム2021報告書刊行



<p>活動の概要</p>	<p>NCUサステナビリティ・シンポジウム2021「防災×SDGs～いま、私たちが備えることは～」(名古屋市立大学主催、名古屋市・名古屋市教育委員会・JICA中部・名古屋市立大学SDGsセンター後援)を2021年11月3日(水)にオンライン(ZOOM使用)にて開催しました。シンポジウムでは、計8チームが防災とSDGsを掛け合わせ、不確実性の高い時代に生きる私たちにとってすべきことは何かを考え、子ども・若者の視点から示し、発表しました。その報告内容および共同ワークショップの概要をまとめた報告書が完成しました。子どもたち・若者たちの声を通して、改めて防災について考える機会となりました。</p> <p>なお、本シンポジウムに関する事業は名古屋市立大学特別研究奨励費(地域貢献型共同研究の推進事業)の助成を受けて実施されました。</p> <p>【参加チーム】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・名古屋市立大学人文社会学部心理教育学科 曾我ゼミ</li> <li>・名古屋市立大学人文社会学部心理教育学科 椎名ゼミ</li> <li>・名古屋市立大学看護学部看護学科地域保健看護学ゼミ</li> <li>・名古屋市立大学高等教育院CS: presentation</li> <li>・オルタナティブスクール あいち惟の森</li> <li>・名古屋市立北高等学校国際理解コース</li> <li>・名古屋市立名東高等学校国際英語科</li> <li>・名古屋市立工芸高等学校都市システム科</li> </ul>
<p>活動の時期</p>	<p>2022年1月刊行</p>
<p>関連URL</p>	<p><a href="#">NCUサステナビリティ・シンポジウム2021開催</a></p>
<p>所属</p>	<p>人間文化研究科(人文社会学部心理教育学科)</p>
<p>氏名</p>	<p>曾我 幸代</p>
<p>専門分野</p>	<p>ESD</p>



NCUサステナビリティ・シンポジウム報告書 (PDF ファイル 6.86MB)

## 開学70周年記念式典を行いました



活動の概要	<p>2022年2月19日（土）、名古屋マリオットアソシアホテルにて名古屋市立大学 開学70周年記念式典を開催しました。</p> <p>この式典は、開学70周年の節目の事業として、2020年10月31日（土）に執り行う予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、この日に延期したものです。</p> <p>第一部の記念式典では、学長式辞、来賓祝辞、来賓紹介、交流会副会長祝辞の後、大学紹介映像「70年の歩みと明るい未来」を上映し、続いて吉田和生副学長より開学70周年記念事業等の紹介がありました。</p> <p>冒頭の式辞で学長は、名市大の発展のために必要な3つの要素について梅の成長に例えて話し、名市大を温かく支えて下さった名古屋市や地域の皆さまへの感謝の気持ちと、さらなる発展のための意気込みを示しました。</p> <p>第二部の記念講演会では、国際協力・ジェンダー専門家の大崎麻子氏を講師にお招きし、「SDGsを考える～創造する未来～」をテーマにご講演いただきました。世界全体で注目されている国際目標SDGsとその達成の先にある未来について考えるための貴重な機会となりました。</p> <p>なお感染症対策のため、参加人数や規模を縮小しましたが、記念式典の様子はYouTubeで生中継し、来場者・視聴者合わせ約300名の関係者や市民の皆さまとともに開学70周年の喜びを分かち合うことができました。</p> <p>※本件は本学広報誌『<a href="#">創新</a>』Vol.43（2022年3月発行）に掲載されました。</p>
活動の時期	2022年2月
関連URL	<a href="#">本学広報誌『<a href="#">創新</a>』Vol.43</a>

## 開学70周年記念コンサートを開催しました



活動の概要	<p>2021年11月21日（日）、愛知県芸術劇場コンサートホールで、名古屋市立大学 開学70周年記念コンサートを開催しました。</p> <p>コンサート開催に向けて、オーケストラは名古屋市立大学管弦楽団およびOB管弦楽団から希望者を募り、合唱団は本学教職員の呼びかけにより結成しました。新型コロナウイルス感染症の拡大により緊急事態宣言が発令されるなど、集合しての練習がままならない中、合唱については動画指導も活用しながら、各メンバーが練習を重ねました。感染拡大が落ち着いてからは、数少ないながらも集合練習を行い、指揮者の熱心な指導の下で結束を高め、本番を迎えることができました。</p> <p>本番では、オーケストラ107名と合唱団64名がプロのソリストとともに、ベートーヴェン「第九」の演奏を響かせました。感染症予防対策として、収容人数を約50%に抑えるなど規模を縮小しての開催となりましたが、素晴らしい演奏と歌声に、オーケストラ、合唱団そして観客が一体となり約900名が感動を分かち合いました。</p> <p>※本件は本学広報誌『創新』Vol.43（2022年3月発行）に掲載されました。</p>
活動の時期	2021年11月
関連URL	<a href="#">本学広報誌『創新』Vol.43</a>



# 名古屋市立大学大学史資料館開館記念シンポジウムを 開催！



活動の概要	<p>2022年2月20日（日）、大学史資料館の開館を記念して、本学在学学生・卒業生・教職員や一般市民を対象に、オンラインにてシンポジウムを開催しました。</p> <p>はじめに、初代大学史資料館館長・人間文化研究科の吉田一彦特任教授が、「名古屋市立大学大学史資料館の展示と特色」と題し、大学史資料館設立の経緯や、貴重な資料について講演しました。</p> <p>続いて、吉田特任教授のコーディネートの下、保健医療福祉連携理事・医学研究科の浅井清文教授、芸術工学研究科の角哲准教授、大学史資料館館長・人間文化研究科の阪井芳貴教授をパネリストに迎え、「名古屋市立大学70年の歴史と大学史資料館」と題したパネルディスカッションを行いました。当日は58名の参加があり、盛況のうちに幕を閉じました。その様子は<a href="https://www.nagoya-cu.ac.jp/archives/">https://www.nagoya-cu.ac.jp/archives/</a>でご覧いただけます。</p> <p>名古屋市立大学大学史資料館は、開学70周年記念事業の一つとして2020年10月末に滝子キャンパスの学生会館（山の畑会館）2階に開館しました。平日9時～17時の間、どなたでも自由にご見学いただけます。</p> <p>※本件は本学広報誌『<b>創新</b>』Vol.43（2022年3月発行）に掲載されました。</p>
活動の時期	2022年2月
関連URL	<a href="#">本学広報誌『<b>創新</b>』Vol.43</a>

# 「名市大ブックス」 創刊 1周年記念事業 特別市民公開講座



活動の概要	<p>2021年12月5日（日）に、2020年10月に創刊した名古屋市立大学出版の書籍シリーズ「名市大ブックス」創刊1周年を記念し、特別市民公開講座を開催しました。午前の部「不治の病は過去のこと！？がん治療の新時代」、午後の部「痛みの正体～見える痛みと見えない痛み～」と題し、名市大ブックスの執筆者である教員・医師らがそれぞれのテーマで講演し、市民を対象に、健康・医療の最新の知見や正しい知識をお伝えしました。また、当日は、「名市大ブックス」の最新9・10巻の先行販売を行い、多くの方に手に取っていただくことができ、好評のうちに幕を閉じました。</p> <p>※本件は本学広報誌『創新』Vol.43（2022年3月発行）に掲載されました。</p>
活動の時期	2021年12月
関連URL	<a href="#">本学広報誌『創新』Vol.43</a>

# 新型コロナウイルス対応の最前線を体験する講座を開催！



活動の概要	<p>2021年10月28日（木）、医学部附属西部医療センターにて、医療系学生が新型コロナウイルス感染症への医療対応を学ぶ講座を開催しました。本講座は、名古屋市立大学医学部の学生団体が中心的に活動を展開する「PICoプロジェクト（※）」の一環で、名市大内外の医学生・看護学生が参加しました。コロナ病棟の看護師、感染管理認定看護師らの説明の後、学生は発熱外来やコロナ病棟を見学した他、个人防护衣の着脱や感染対策下での病室清掃等を体験しました。参加した学生からは、「ゾーニングの徹底など実際に現場を見てみないと分からないことがあり、貴重な経験となった」との感想があり、将来の医療者がパンデミックの一端を体感できる貴重な機会となりました。</p> <p>（※）PICo：Passion=医学生の熱意、Innovation=医療者・教育施設の革新、Co-Creation=医学生・医療者・教育施設の三位一体の協力 医学生と愛知県、愛知県周辺の医療者・教育施設が相互に意見を出し合い、医学生に新しい教育プログラムを提供し、新しい学びの場を作り出すためのプロジェクト</p> <p>※本件は本学広報誌『<a href="#">『創新』 Vol.43</a>（2022年3月発行）に掲載されました。</p>
活動の時期	2021年10月
関連URL	<a href="#">本学広報誌『<a href="#">『創新』 Vol.43</a></a>

## 名古屋市立大学・豊橋技術科学大学 包括連携協定締結式及び記念シンポジウムを開催！



活動の概要	<p>2021年11月29日（月）、名古屋市立大学と豊橋技術科学大学の包括連携協定の締結式及び記念シンポジウムを開催しました。シンポジウムは、「医薬・工連携の新たな挑戦」と題し、両者の教員が講演・パネルディスカッションを行い、教職員・市民をはじめ多くの方々に聴講していただきました。今後、両大学の専門分野を十分に生かし、地域社会の一層の発展に資するため、教育、研究、社会貢献等に関して連携を推進し、学術及び産業の発展並びに人材の育成に寄与してまいります。</p> <p>※本件は本学広報誌『<a href="#">創新</a>』Vol.43（2022年3月発行）に掲載されました。</p>
活動の時期	2021年11月
関連URL	<a href="#">本学広報誌『<a href="#">創新</a>』Vol.43</a>

## 創薬スクリーニングフェアを開催！



活動の概要	<p>薬学研究科の創薬基盤科学研究所では、東京大学の創薬機構の協力を得て、医薬品のもととなる化合物を探す「スクリーニング」に関する3つのイベントを、「創薬スクリーニングフェア」と題して行いました。</p> <p>第1弾として2021年10月20日（水）に、スクリーニングの基礎を学ぶ「化合物スクリーニング講習会」を開催しました。第2弾は11月23日（火）に、「スクリーニングシンポジウム」として、薬学研究科の先生方の研究の発表会を行い、スクリーニング研究の最新の具体例を紹介していただきました。第3弾は「スクリーニング相談会」として、これからスクリーニングを始めようという人や実際に始めた研究者のための相談会を11月30日（火）に開催しました。いずれもZoomによる開催で、中部地方の研究者や学生さん計94名に参加していただきました。</p> <p>※本件は本学広報誌『<a href="#">創新</a>』Vol.43（2022年3月発行）に掲載されました。</p>
活動の時期	2021年10月～11月
関連URL	<a href="#">本学広報誌『<a href="#">創新</a>』Vol.43</a>

## TEEPシンポジウム・ワークショップ2021を開催！



活動の概要	<p>2021年11月18日（木）、本学が文部科学省の「持続的な産学共同人材育成システム構築事業」に採択された「進化型実務家教員養成プログラム（TEEP）」第2回シンポジウム・ワークショップがオンラインで開催され、約130名が参加しました。シンポジウムでは、今後の人材養成における実務家教員のあるべき姿と役割が議論され、実務家教員がシミュレーションや課題解決型演習等の実践的学習の担い手であることが強調されました。また、ワークショップでは、修了生5名から、修了生から見た実務家教員養成プログラムの意義と受講による貴重な体験が語られました。キーワードは自らのキャリア開発デザインでした。活発な質疑応答もあり、豊富な実務経験と教育力を併せ持つ実務家教員が、企業と大学をつなぎ、新たな価値を生み出す可能性を感じるものとなりました。</p> <p>※本件は本学広報誌『創新』Vol.43（2022年3月発行）に掲載されました。</p>
活動の時期	2021年11月
関連URL	<a href="#">本学広報誌『創新』Vol.43</a>

## 瑞穂区連携事業「薬学教室」を開催！



活動の概要	<p>例年8月に開催している薬学部と瑞穂区役所との連携事業「なつやすみ薬学教室」は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、2021年度は10月17日（日）に延期して開催しました。今回は「あなたも科捜研の一員になれる?！」をテーマに、小学5年生から中学3年生の28名が、試薬を用いた血痕や指紋の検出の体験を行いました。</p> <p>試薬が光ったり、自分の指紋が浮き出たりすると参加者は歓声を上げ、実験を補助した大学の学生も参加者とともに笑顔になりました。</p> <p>終了後のアンケートでは、とても楽しかったという感想の他、薬学部に興味を持ったという感想も多くいただきました。数年後に一緒に本学で学び、そして研究する仲間になってもらえることを期待しています。</p> <p>※本件は本学広報誌『<a href="#">『創新』</a> Vol.43（2022年3月発行）に掲載されました。</p>
活動の時期	2021年10月
関連URL	<a href="#">本学広報誌『<a href="#">『創新』</a> Vol.43</a>

## なごや看護生涯学習セミナー「看護研究いろはの『い』・『ろ』・『は』」を開催！



活動の概要	<p>2021年10月と11月に、医療関係者を対象に、看護研究セミナーを3件実施しました。</p> <p>看護研究いろはの「い」では、研究疑問から研究計画書作成について、いろはの「ろ」では、量的研究の基礎について、いろはのは「は」では、質的研究の基礎について、それぞれ看護学研究科の教員による講義を行いました。</p> <p>セミナー終了後のアンケートからは、「論文に興味があっても、これまで学習機会がなかったため書くことができないが、今後、学んでみたいと思っている」「いままで多くの時間と手間をかけて勉強したものが集約された印象であった」などの声を数多く聞くことができ、受講者にとって充実した学びの場となりました。</p> <p>※本件は本学広報誌『創新』Vol.43（2022年3月発行）に掲載されました。</p>
活動の時期	2021年10月～11月
関連URL	<a href="#">本学広報誌『創新』Vol.43</a>



## なごや看護生涯学習セミナー「体験型オープンダイア ログ～『聴く』と『話す』が織りなすケアの可能性 ～」を開催！



活動の概要	<p>2021年10月23日（土）、医療関係者を対象に、看護実践セミナー「体験型オープンダイアログ～『聴く』と『話す』が織りなすケアの可能性～」を開催しました。</p> <p>セミナーでは、オープンダイアログ（※）について、看護学研究科の門間晶子教授と同研究科博士後期課程3年の加藤まりさんによる講義と演習を行い、オープンダイアログの発祥・実際、7つの原則、12の基本要素、日本での広がりなどについて、フィンランドでの研修ツアーの様子を含めて説明がありました。</p> <p>受講者からは、「体験することができ、とても勉強になった」「この考え方がもっと広がり、支援につながると思う」などの感想があり、充実した学びの場となりました。</p> <p>（※）「オープンダイアログ」とは、フィンランドの西ラップランドで1980年代から統合失調症に対する家族療法的なアプローチとして始まり、薬物をほとんど使わず、対話の力で治すという成果をあげているアプローチです。</p> <p>※本件は本学広報誌『<a href="#">『創新』Vol.43</a>（2022年3月発行）に掲載されました。</p>
活動の時期	2021年10月
関連URL	<a href="#">本学広報誌『<a href="#">『創新』Vol.43</a></a>

## 今年で9年目！名市大「BLS講習会」を開催！



活動の概要	<p>2021年12月14日（火）・16日（木）・24日（金）の3日間、学生と教職員を対象に、胸骨圧迫やAED、人工呼吸などの一次救命処置の実践方法を学ぶ「BLS（※）講習会」を開催しました。東部医療センター救命救急センター長の松嶋麻子教授がディレクターを、救命救急サークルMeLSC（メルシー）の学生（延べ24名）がインストラクターを務め、3日間で学生29名、教職員32名が参加し、盛況のうちに終えることができました。</p> <p>医学部3年でMeLSC代表の鈴木英資さんは、「119番から救急車が到着するまでの時間は、名古屋市で約6分。その6分間にできることがある。ちょっとした知識と勇気で救える命がある。」と講習の中で訴えました。いざというときに1人でも多くの命を救えるように、今後も名市大ではBLSの普及に努めていきます。</p> <p>（※）BLS…Basic Life Supportの略称講</p> <p>※本件は本学広報誌『<a href="#">『創新』</a> Vol.43（2022年3月発行）に掲載されました。</p>
活動の時期	2021年12月
関連URL	<a href="#">本学広報誌『<a href="#">『創新』</a> Vol.43</a>

## FD・SD講演会を開催！



活動の概要	<p>2021年12月24日（金）に「コロナ禍における新しい授業・学生支援の取り組み」をテーマに、FD・SD講演会を開催しました。当日は、経済学研究科の山本奈央准教授、芸術工学研究科の寺嶋利治助教、看護学研究科の益田美津美准教授から、それぞれ遠隔授業の実施における工夫や課題などについての講演がありました。この講演会には名古屋六大学(※)も参加しており、合計で100名以上の教職員が参加しました。講演後のアンケートでは、「コロナ禍にていろいろと授業の工夫をしているところが多く、とても参考になった」、「教員側の新しい取り組みに対する、学生側の反応を知ることができた」などの声があり、教職員にとって、今後のさらなる授業内容の向上を考える機会となりました。</p> <p>(※) 名古屋六大学：名古屋市立大学、名古屋大学、名古屋工業大学、南山大学、名城大学、中京大学</p> <p>※本件は本学広報誌『創新』Vol.43（2022年3月発行）に掲載されました。</p>
活動の時期	2021年12月
関連URL	<a href="#">本学広報誌『創新』Vol.43</a>

## 都市政策研究センターが「2021年度連続セミナー」を開催！



活動の概要	<p>2021年度連続セミナー「社会経済の変化と都市政策」を、名古屋市および近隣自治体の職員を対象として、オンライン（Zoom）にて開催しました。本年度は、第1回を2021年12月20日（月）に「データ分析からみた地方財政健全化」（講師：経済学研究科 湯之上英雄准教授）をテーマとして開催し、データ分析の手法を紹介し、地方財政健全化について講義しました。また、第2回は2022年2月7日（月）に「個人情報保護制度の概要と展望」（講師：人間文化研究科小林直三教授）をテーマとして開催し、個人情報保護法改正の概要とそれを踏まえた展望について講義をしました。第1回、第2回ともに質疑も活発に行われ、大変有意義な時間となりました。受講者からの「教養が深まった」「広い視点を持つきっかけとなった」などの声を励みに、今後も都市の課題に関する情報の発信を進めていきます。</p> <p>※本件は本学広報誌『<a href="#">創新</a>』Vol.43（2022年3月発行）に掲載されました。</p>
活動の時期	2021年12月、2022年2月
関連URL	<a href="#">本学広報誌『<a href="#">創新</a>』Vol.43</a>

## タシケント医学アカデミーとの学術交流協定締結 およ びウズベキスタン共和国駐日大使の来訪



活動の概要	<p>名古屋市立大学は、タシケント医学アカデミー（ウズベキスタン共和国タシケント市）と学術交流協定を締結し、2021年10月15日（金）にオンライン形式にて協定締結式を開催しました。先方よりアリシャール・シャドマノフ学長、アシソファ・フェルサ副学長、ムロド・ジャファロフ国際部長が、本学より郡学長、医学研究科の高橋研究科長と安井教授が参加し、今後の共同研究等をはじめとした交流について意見交換を行いました。</p> <p>また、協定締結式に合わせて、駐日ウズベキスタン共和国大使館のムクシンクジャ・アブドゥラフモノフ特命全権大使ご一行が本学を表敬訪問されました。その後、本学とウズベキスタン共和国内の大学との今後の交流について参加者らと話し合われました。</p> <p>※本件は本学広報誌『<a href="#">『創新』</a> Vol.43（2022年3月発行）に掲載されました。</p>
活動の時期	2021年10月
関連URL	<a href="#">本学広報誌『<a href="#">『創新』</a> Vol.43</a>

## 国際交流センター公式学生団体「NCU GO!」が Christmas Partyを開催！



活動の時期	<p>2021年12月12日（日）、国際交流センター公式学生団体「NCU GO!」により、留学生と日本人学生の交流を目的としたChristmas Partyが開催されました。本年度は十分な感染対策を行った上で対面で開催することができ、留学生と日本人学生合計約20名の学生が参加しました。和やかな雰囲気の中、ビンゴゲームやクイズ大会、プレゼント交換など楽しいイベントが行われました。コロナ禍では久々の対面でのイベント開催となり、留学生と直接コミュニケーションをとることができる素晴らしい機会となりました。</p> <p>※本件は本学広報誌『創新』Vol.43（2022年3月発行）に掲載されました。</p>
活動の時期	2021年12月
関連URL	<a href="#">本学広報誌『創新』Vol.43</a>

## ジャウメ I 世大学（スペイン）と大学間交流協定を締結！



活動の概要	<p>名古屋市立大学は、ジャウメ I 世大学（スペイン）と学術交流協定および学生交流協定を締結しました。2021年12月2日（木）にオンライン協定締結式が開催され、両大学学長および関係者らが出席しました。ジャウメ I 世大学のエバ・アルコン学長は、「日本との関係強化に向け、さらなる一歩を踏み出した」、名古屋市立大学の郡学長は、「スペイン語圏の国々から多くの学生を受け入れたい」とあいさつしました。締結式の後は、ジャウメ I 世大学の教員や職員による「スペイン短期派遣研修説明会」が行われ、学部生・大学院生が参加しました。今後、スペイン語圏との学生交流が活発となることを期待しています。</p> <p>※本件は本学広報誌『創新』Vol.43（2022年3月発行）に掲載されました。</p>
活動の時期	2021年12月
関連URL	<a href="#">本学広報誌『創新』Vol.43</a>

## 東ティモールパーツ大学との第2回オンライン交流講義 を開催！



活動の概要	<p>2021年11月11日（木）、本学看護学部の教室、パーツ大学公衆衛生学部の教室と同大学のフィールド実習サイトである2つの村をつないで交流講義を開催し、両校の学生、教員合わせて約250名が参加しました。本学からは、看護学部2年生3名が日本の保健師の仕事の紹介をし、看護学研究科博士前期課程2年生が東ティモールの公的データを使った研究結果を発表しました。パーツ大学からは、1年生と教員により公衆衛生学部の紹介があった後、村でのフィールド実習の様子について発表がありました。すべて英語で実施され、とても貴重な交流の機会となりました。</p> <p>※本件は本学広報誌『創新』Vol.43（2022年3月発行）に掲載されました。</p>
活動の時期	2021年11月
関連URL	<a href="#">本学広報誌『創新』Vol.43</a>



## 「日本語Talk Time～雅～」を開催！



活動の概要	<p>2022年1月12日（水）、国際交流センターと同センター公式学生団体「NCU GO!」、「よいしょ」が合同で「日本語Talk Time～雅～」をオンライン開催しました。このイベントは日本語での交流を目的としており、タイ、アメリカ、ドイツ、韓国の国際交流協定大学と名市大の学生あわせて55名が参加しました。教員と学生団体が企画した5つのブレイクアウトルームが用意され、参加者は各自興味のあるルームに参加する形式で行われました。特に参加者へ漢字の名前をプレゼントするコーナーでは大いに盛り上がりました。コロナ禍でも国際交流協定大学の学生とつながることができた貴重な機会となりました。</p> <p>※本件は本学広報誌『創新』Vol.43（2022年3月発行）に掲載されました。</p>
活動の時期	2022年1月
関連URL	<a href="#">本学広報誌『創新』Vol.43</a>

## 鶴舞中央図書館主催 絵本の読み聞かせイベントに本学 留学生3名が出演！



活動の概要	<p>2021年12月11日（土）に、鶴舞中央図書館の主催、本学国際交流センターの協力により、「せかいのことばでおはなし会」が開催され、本学の留学生3名がゲスト出演しました。2014年から毎年開催されており、今年で9回目の開催となりました。このイベントは、留学生がそれぞれの母語で絵本の読み聞かせをするというもので、本年は中国語、英語、韓国語で行われました。4歳前後のお子さんやその保護者の方計10名の参加があり、絵本の朗読の他、出身地の紹介やそれぞれの言葉で「ジングルベル」を一緒に歌うお楽しみ時間が設けられ、参加者みんなでの交流が行われました。イベント終了後には、出身地に関して留学生に質問をする子どもの姿も見られました。</p> <p>※本件は本学広報誌『創新』Vol.43（2022年3月発行）に掲載されました。</p>
活動の時期	2021年12月
関連URL	<a href="#">本学広報誌『創新』Vol.43</a>

## 第39回大阪女性文芸賞、短歌大会、出版コンペティションで受賞ラッシュ！



活動の概要	<p>医学部3年の中川朝子さんが、第39回大阪女性文芸賞を受賞しました。大阪女性文芸協会が主催しているこの文学賞に中川さんは小説「息ができない」で応募し、全国249編の応募作品の中から受賞に至りました（同賞の大学生受賞は史上2人目）。受賞作品は文芸誌「鐘」第34号に掲載され、2022年2月より発売されています。中川さんは、第15回全日本学生・ジュニア短歌大会 高校・大学専門学生の部で奨励賞、第17回出版甲子園で準グランプリも受賞しています。</p> <p>※本件は本学広報誌『創新』Vol.43（2022年3月発行）に掲載されました。</p>
活動の時期	2022年2月
関連URL	<a href="#">本学広報誌『創新』Vol.43</a>

## 国立台北護理健康大学との学術交流協定を締結しました



活動の概要	<p>2022年3月17日、国立台北護理健康大学（台湾）と学術交流協定を締結しました。オンライン形式にて交流協定締結式が開催され、両大学の学長はじめ、関係者が出席しました。国立台北護理健康大学の吳淑芳（ウー・シュー・ファン）学長は、「ウィンウィンの関係を築いていけることを確信している」、本学の郡理事長は、「分野を問わず、大学全体として実りのある今後の交流に期待する」と述べました。</p> <p>また締結式後には、先方大学の「研究開発センター」と本学看護学研究科の共催により、オンラインセミナーが開催され、それぞれの大学の教員と博士課程学生が発表を行いました。セミナーには双方の教員と学生が多数参加し、大変実りのあるものとなりました。今後ますますの交流が期待されます。</p> <p>※本件は本学広報誌『創新』Vol.44（2022年6月発行）に掲載されました。</p>
活動の時期	2022年3月
関連URL	<a href="#">本学広報誌『創新』Vol.44</a>